



教育目標 誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり

「誰一人取り残さない」学校づくりをめざして

校長 白田 敏幸

個に応じた指導（個別最適な学び）。この言葉は決して新しいものではなく、教育界において継続して大切にされてきたことです。しかし、個に応じた指導の大切さは分かっているものの、どうしても、効率性・実効性を考えた場合に、日常の授業において「一斉授業」が主となってしまいます。「言われたことを言われた通りに」「みんなと同じことを同じように、同じペースで」できることがよしとされてきました。確かに、このことが必要とされてきた時代があったことは事実です。しかし、このようなやり方のみでは、変化の激しいこれからの時代を幸せに暮らしていくために必要な力を身につけることは困難なのではないかと考えています。（決して、今の教育や教員を否定するものではありません。本校の教員は日々、懸命に、悩みながら授業づくりに励んでいます。）みんなと同じようにできない子供は劣等感を感じ、自己肯定感を低下させてしまう恐れもあります。逆に、もっと先に進みたい子供は待たされ、学びの本当の楽しさを味わえていない可能性もあります。

そこで本校では、「誰一人取り残さない」ことを最上位の目標に掲げ、全ての子供たちが「学校は楽しいところだ」「新しいことを学ぶ・知っておもしろい」と思える学校づくりに取り組んでいます。そのために大事にしていることが、大きく3つあります。1つ目が、「子供たちが自分で決める場を数多く設定する」ことです。これまで子供たちは、ことあるごとに大人の「了解」を得てきました。当然それが必要な場面もあります。しかし、これでは、自分で考えて行動できる力がつきにくくなってしまっているのではと思っています。全てを子供に任せきりしてしまうと、いわゆる「放任」にもなりかねませんので、選択させる場面をできる限り多く設定するようにしています。「あなたはなにをしたいのか？」「どうするのか？」を子供に問うようにしています。例を挙げれば、日々の宿題は、低学年であっても自分たちで話し合って決めています。宿題の量も自分の力に合ったものを選択できるようになってきています。一律に同じ量を家庭学習に課すことの意味を問い直した結果です。自分で決めるからといって、量が少なくなることはありません。かえって、その日の自分たちの学びを振り返り、自分たちに必要な家庭学習を決める力が身につけてきています。2つ目が、教職員が、自分自身の「子供を見取る目」を養っていくことです。子供には一人一人によさがあります。しかし、子のよさを見つけ、価値づけ、子供に返すことがどれだけできているでしょうか。「見つけようとして見ないと見えない」という言葉があるように、我々教職員（大人）が、他の子供と比較することなく、真剣に一人一人のよさを見つける覚悟をもって教育に当たることの大切さを常に確認しています。そして3つ目が、「対話を大事にする」ということです。何かを決定する時、安易に多数決に頼らず、全ての子供の考えが反映されていること、全ての子供が納得できるモノになることを心がけています。「A」がいいのか、「B」がいいのか。どちらも納得できないのであれば新しい「C」という考えを生み出す。本校で求めている「考え抜く力（創造）」と結びついています。しかし、これは、我々大人でも簡単なことではありません。だからこそ、教育活動の中で、そういった場面を繰り返し経験させていくことが大切だと捉えています。

誰一人取り残さない（全ての子供たちが安心して暮らすことのできる）学校や社会をつくるためには、改めて我々大人の価値観（見方や考え方）を問い直し、大人の都合だけを優先するのではなく、子供一人一人の思いを大切にしていける必要があると考えています。

学校生活の様子から

【おはようプロジェクト<河北中学校校>】

河北中学校の生徒（本校の卒業生及び生徒会の役員）が、朝の時間、昇降口に立ってあいさつ運動をしてくれています。あいさつをすれば中学生からごほうびのシールをもらうことができます。照れながらも、元気にあいさつする姿は気持ちがいいです。



【はかせちゃんタイム】

昨年度より、「はかせちゃんタイム 個人総合」を実施しています。これは、自分で課題を設定し、資料を集めて調べ、まとめて発表をするという一連の流れからなる子供たち一人一人の学びの時間です。まさに、「自分の学びを自分でつくる」活動です。12月上旬に発表会をする予定です。



【6年 地層見学】

理科の学習で、朝日町に地層見学に行ってきました。地層が非常にきれいに見える場所で、全国版の理科の教科書にも写真が掲載されています。あいにくの雨でしたが、地層のでき方や自然の力の壮大さを感じ取ることができました。



【持久走記録会】

10月11日(水)に持久走記録会を実施しました。昨年度より、学年・男女別での順位は付けずに、前年度の自分や目標記録への挑戦するようにしています。まさに、自分とのたたかいです。この日まで、朝マラソンや教科体育の中で一生懸命に練習してきました。当日は、保護者の方や地域の方からたくさんの声援をいただくことができ、みんな最高の走りをする事ができました。



【3・4年 山形市見学】

10月17日(火)に、社会科見学として山形市に行ってきました。見学場所は、「県庁」「県警本部」「県立博物館」です。移動は、町のスクールバスを利用しましたが、寒河江から山形までは、自分で切符を買って、左沢線に乗車しました。

県庁では、災害対策室や県議会場を見学しました。県警察本部では、緊急指令室の見学をしたり、実際に110番があったときの対応について教えていただいたりしてきました。また、県立博物館では、山形県に関する様々な展示物を見ることができました。



🎉おめでとう!🎉

【第19回 べに花の里こども俳句大会】

佳作 6年 阿部 香凛 「紅花を つんで手袋 紅色に」

【令和5年度 ボランティア作文コンクール】

小学生部門 優良賞 6年 齋藤 晴太

「ボランティアで地域を盛り上げる」



トライアングルコーナー

～河北町立谷地西部小学校PTA活動紹介～

【第5学年 学年行事】 ～芋煮会～

爽やかな秋晴れのもと、5年生の学年行事「芋煮会」を開催しました。

当初は、河川敷で開催する予定でしたが、前日の雨の影響で増水していたため、公民館で開催することとなりました。そんな中でも、子供たちががんばってお手伝いしてくれました。ゴボウやネギを切ったり、こんにゃくをちぎったり…。味付けまで完璧でした。

コロナ禍で芋煮会などの行事はなかなか開催できず、子供たちには寂しい思いをさせていたのかもしれませんが、今年、やっと開催することができ、子供たちの楽しそうな顔を見て、我々大人も、和やかで楽しい時間を過ごすことができました。 (5学年部長 堀米 亮平)



【第3・4学年 学年行事】 ～二分の一成人式～

9月30日(土)、3・4学年合同の学年行事を行いました。午前中は、尾花沢市徳良湖でのカヌー教室。「キマイラ・フィット河北」代表の荒木優希先生から、分かりやすく指導していただき、初めはみんな思うように進めず、艇から落ちそうになることもありましたが、子供たちはのみ込みが早く、すぐに上手に乗れるようになりました。最後、『カヌーで鬼ごっこ～荒木先生を捕まえろ!ゲーム～』をして、みんな本気でびしょ濡れになりながら追いかけていましたが、全国制覇の実力者にはかなわず。限られた時間でしたが、楽しいカヌー体験ができました。

午後からは、会場を尾花沢市花笠ふれあいセンターに移し、芋煮会並びに二分の一成人式を行いました。式では、まだブカブカした大きな親のスーツを着ることで、十年後の成長を思い描きました。そして一人一人、個性ある様々な夢を立派に発表してくれました。お父さんお母さんは、これからもずっと夢に向かう子供たちを見守り応援していくので、がんばってください。

保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

(4学年部長 堀米 喬)

